

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-151	C-151	16-022 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol-Related Dementia and Neurocognitive Impairment: A Review Study. アルコール関連認知症と認知神経科学的障害：レビュー研究		
執筆者		
Sachdeva A, Chandra M, Choudhary M, Dayal P, Anand KS.		
掲載誌		
Int J High Risk Behav Addict. 2016 Feb 7;5(3):e27976. Review.		
キーワード		PMID
アルコール、認知症、認知、ウェルニッケ脳症、チアミン		27818965
要 旨		
<p>目的： 多くの国において、アルコール摂取量は過去 10 年間で急速に増加した。また、アルコール摂取と認知機能低下との関連が示唆されている。本論文では、アルコールと認知機能低下に関する概念や議論、疫学、疾病分類学、神経病理学、神経生物学、アルコール関連認知症 (ARD) の最新管理について系統的にレビューした。</p> <p>方法： PubMed database を用い、"アルコールと認知症"、"アルコールと認知機能低下"、"アルコールとウェルニッケ・コルサコフ症候群" の用語がタイトルに含まれる論文を検索した。131 論文が検索され、そのうち適切なものとして 72 論文を対象にレビューした。選択された論文は著者らが読み、結果を収集した。</p> <p>結果： アルコールの過度摂取は構造機能的に脳障害に至り、結果的に ARD に至る可能性がある。認知障害はたいてい、視空間機能や記憶、実行機能の領域で観察され、断酒が続いた場合は部分的な回復の可能性もある。しかし、評価のむずかしさや様々な交絡因子があり、疾病原因、疾病分類学的な状態、独立した ARD の有病および診断基準に関する疑いがある。</p> <p>結論： 若年および中年者のアルコール摂取増加に伴い、ARD が激増する可能性がある。現在、独立した ARD の診断にはジレンマがある。したがって、さらなる系統的論文を介した、エビデンスに基づいた ARD の診断および管理ガイドラインの発展が必要であると考えられる。</p>		